



三小だより

武蔵村山市立第三小学校 令和3年 9月号 9月1日発行

教育目標

- ◎ よく考える子
- なかよくする子
- 元気で明るい子
- かいっぱいがんばる子



お互いを気遣う心

校長 前川 潤

コロナ禍で迎える二度目の夏休みとなりました。デルタ株の蔓延により児童にも罹患の可能性が大きくなってしまいました。そのような中で、感染防止対策を講じつつ、地域未来塾を開催いたしました。地域の大学生と支援員の指導の下、たくさんの児童が参加しました。自ら決めた課題を持参し、分からないことをアドバイスしてもらう様子には主体的に取り組む姿勢を感じました。

話は変わりますが、毎年夏になると海や河川での水の事故の報告があります。夏季休業中、本校児童の大きな事故等の報告がなかったことは、御家庭・地域での見守りと支援のお陰と感謝申し上げます。今後も暑い日が続きますので、児童への指導をしていきます。地域未来塾と水の事故については、次頁以降に詳しく掲載していますので、御一読ください。

コロナ感染はさらに厳しい状況となり、市内の小・中学校でも、保護者や児童生徒の感染が報告されています。これまでの感染防止対策を再度確認し、気を引き締めて教育活動を進めてまいります。9月の教育活動については、別紙でお知らせいたします。

私たちはコロナ感染の不安や制限がかかる生活に、ストレスをためています。昨年からは自殺者数が増加傾向にあるとの報告も聞いています。子供たちも同様で、毎日の感染防止を謳っての生活は、かなりのストレスがかかり、大きな声を出したり、イライラしたりするのも無理のないことと感じています。1学期に、ある学級の授業で「ホワホワ言葉」（心を温める言葉）と「チクチク言葉」（心を傷つける言葉）を考えていました。温かい、ポジティブな言葉かけには、誰もが和らぎを感じます。赤ちゃんは、親からの言葉かけやスキンシップで安心感を得て、その効果で脳下垂体からオキシトシン（幸せホルモン）の分泌が高まります。学校では、9月当初の2週間を「エールウイーク」と名付けて、小さなことでも「すごいね!」「さすがだね!」「いいね!」と、子供たちを励ます温かい言葉かけを意識的にしていきます。忙しい毎日ですが、御家庭でも温かい言葉かけとコミュニケーションをお願いします。低学年の児童なら、膝の上に乗せたり、抱きしめたりすることも効果的です。家庭内での会話やコミュニケーションがとても大切です。

私たち大人もストレスがたまりませんが、相手を思いやることができた自分自身にも、自己肯定感が生じ、オキシトシンが分泌されます。コロナ禍の厳しい時だからこそ、お互いを気遣う心を大切に過ごしていきたいと思えます。



第三小 地域未来塾

地域資源を活用した特色ある教育活動

地域未来塾は、主体的に学習に取り組む児童を育成します。

【令和3年度の地域未来塾の実績】

- ・ 実施期間 7月21日(水)から30日(金)までの平日の6日間
- ・ 参加児童 1年生～6年生の134名の児童(全体の約32.4%)
応募期間及び参加日数を限定して募集をかけました。
- ・ 学習内容 自分で学習計画を立てて学習材を持参し、自分で決めた課題に主体的に取り組みました。
- ・ 学習指導員 教員以外の学校職員5名、大学生13名の計18名で指導しました。

参加者の満足度98%以上
(児童の感想より)



<参加児童の主な感想>

- 頭がよくなりそうです。(1年)
- 家よりちゃんとできました。(2年)
- 大学生の教え方が分かりやすかったので、苦手なところが分かりました。(3年)
- 未来塾はとても楽しかったです。とても集中できました。(4年)
- 夏休み家にいるとやる気がでないけど、未来塾でやったら、分からないことも聞けたし勉強が進んでよかったです。(5年)
- しっかり自分で決めた課題に取り組みたと思いました。(6年)
- 大学生に勉強を教えてもらう機会はなかなかなかったので、今回貴重な体験ができました。勉強に集中できてよかったです。(6年)

来年も絶対に
参加しよう◎。
だって、分から
ない勉強を教え
てくれるもん。



令和3年度、新規事業として開設した地域未来塾に対して、多くの保護者・地域の皆様方より御支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

今年度の成果は、何よりも参加児童の98%以上が「楽しかった」と回答したことです。これは、様々な理由が考えられますが、特に地域の大学生等を学習指導員として活用したことや、児童自ら学習内容を決めて勉強する方法を取り入れたことではないでしょうか。

一方で課題も残りました。それは、この事業が地域から愛され途切れなく継続していくことです。そのためには組織体制の構築が喫緊の課題です。今後は計画と運営を担うコーディネーターを確保し、学習指導員(大学生等)を継続的に確保するシステムを創り上げていこうと考えています。今後とも地域未来塾に対しての御理解・御協力をよろしくお願い致します。



校長 前川 潤

子どもたちを「水の事故」から守るために

9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続き、お子さまが休日等に水辺での活動を行うことがあるかと思います。

学校では「水の事故」を防ぐための指導について、体育の時間を中心に、学校の教育活動全体を通して指導しておりますが、各家庭でもお子さまに対して、海や河川などの自然環境においては、季節にかかわらず常に危険と隣り合わせであること等について御指導、お声掛けをお願いいたします。

◆子どもを川や海等で水遊びをさせる場合は次のことを確認してください。

- ・保護者等、大人が責任をもって子どもたちを遊ばせること。
(常に状況を確認)
- ・流れの急な所や深みなどが無い大人が確認をして、遊ぶ範囲を決めること。
- ・万が一に備えて、ライフジャケット等命を守る物を着用させること。

◆水辺の危険性について御家庭でも御指導ください。

- ・川や海、水路などは天候により水量が増し、流れが急になること。
- ・川や海の水位は場所によって異なり、急に深くなる場所もあること。
- ・川や海の流れの方向や強さは一定ではないこと。

◆川や用水路等だけではなく、お子さまの遊び場所や行動範囲に危険な箇所がないかお子さまと一緒に確認し、安全な遊び方について考える機会をもってください。

【参考】「令和2年夏期における水難の概要—警察庁生活安全局生活安全企画課—」から

- 年齢別水難者数 616人
(616人のうち、未就学児25人、小学生58人、中学生18人)
- 場所別 海329人、河川221人、湖沼池29人、用水路29人、プール4人、その他4人
*用水路など子どもたちの身近な場所での事故も発生しています。
なお、子どもの事故は河川での事故が多くなっています。
- 行為別 水泳89人、水遊び148人、魚とり・釣り130人、作業中26人、通行中33人、その他190人
*「水遊び」や「魚とり・釣り」、さらには「通行中」にも事故は発生しています。

◆ 9月の行事予定 ◆

日	曜	行 事 等
1	水	始業式 避難訓練（一斉下校） 教育実習開始 金曜時程 エール・ウィーク始
2	木	給食始 金曜時程（4時間授業）身体計測（3年）
3	金	身体計測（1年）
4	土	
5	日	
6	月	身体計測（2年）
7	火	ゲーム集会（2年）
8	水	身体計測（4年）
9	木	身体計測（5年） わかば指導始 ゲーム集会（6年）
10	金	身体計測（6年） エール・ウィーク終
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	ゲーム集会（5年）
15	水	委員会活動
16	木	学力調査（6年）
17	金	学力調査（5年）
18	土	土曜授業（道徳授業地区講座）
19	日	
20	月	敬老の日
21	火	教育実習終 学力調査（4年）
22	水	安全指導 プラネタリウム見学（4年）
23	木	秋分の日
24	金	振替休業日（18日分）
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	校内研究授業
30	木	

三小公式
ツイッター



生活リズムチェック

一日も早く学校生活のリズムを取り戻すことを目的として、生活リズムチェックを実施します。

期間は9月6日（月）～9月12日（日）です。

1～3年生については、お子様と一緒に御記入ください。
生活リズムチェック表は、9月13日（月）に御提出ください。よろしくお願いたします。

道徳授業地区講座について

下記の日程で道徳地区講座を行います。
今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため公開は致しません。各学年の授業の様子は学校公式 Twitter などでお知らせします。御了承ください。

なお、公式 Twitter には QR コードから登録ができます。どうぞこの機会に登録がまだの方は御登録いただきますよう御協力をお願いします。

○日時 9月18日（土）

※振替休業日は9月24日（金）

※当日は金曜時程の4時間授業となります。

※下校は4時間目終了後の12時10分頃になります。

教育実習のお知らせ

9月1日（水）～21日（水）の期間で養護教諭の教育実習生を迎えます。

基本的には保健室での業務ですが、給食指導や各教科等の活動に参加することも予定されています。

エール・ウィークの実施について

東京都教育委員会が進める「子供輝く@TOKYO」を都内全ての公立学校を対象に実施することになりました。その一環として、長期休業日明けの見守り活動と関連付けて9月1日（水）～10日（金）まで「エール・ウィーク」を実施します。私たち教職員が児童の声に耳を傾け、その思いを知り、抱えている不安や悩みに寄り添うとともに、児童自身がありのままの自分を認め、さらなる成長を目指せる声かけや指導を行います。